

平成 31 年 4 月 15 日 統合型リゾート施設（IR）説明会

「IR制度の概要及びIR導入の効果と影響」

有限責任監査法人パートナー 仁木和彦氏

質疑応答

【質問】

- ・市長の話では、3月3日に大寄地区住民に説明し、3月4日に地区から同意書を得ているということだったが、何を持って地区の同意としたのか。
- ・その後、市が市議会の全員協議会に説明した内容では、130世帯中、50世帯が出席していたとのことだが、出席者に聞いたら、実際は20人くらいとのことだった
- ・大寄も萩間地区もほとんど知らず、心配な人が多い中で進めてしまっているのか。
- ・4月13日に民間で開催した説明会でアンケート調査をしたところ、出席者95人中56%の回収率で、期待が1、不安が45、どちらでもないが8であった。
- ・不安を抱える人がいる中で市はどんどん進めていくのか。

【回答】

- ・2月9日に大寄地区企業誘致推進委員会に説明、3月3日に大寄地区全体に説明し、翌日地区から同意書が提出された。
- ・3月3日の出席者は、40～50人くらいいたと報告を聞いている。
- ・どんどん進めるのかということについては、市の中でもIRとは何かについて今日のような勉強会を行っている。その場での意見を含めて、きちっとしたものにしていく。
- ・市ではなく、県が国に申請するもの。県にも検討してもらい、県との協議状況も踏まえて、市民の皆さんと話をしていく。

【意見】

- ・3月3日の説明会には、市長も副市長も出席していた。
- ・私も出ていたが、20人くらいしかいなかった。

【意見】

- ・大寄地区の開発候補地の現状を知ってもらいたい。反対の人は現場を見ているのか。
- ・地元としては、長年深い山でどうしようもない中で、この話が来た。
- ・3月3日は、40～50人の出席があった。その前の企業誘致委員会の役員会もその場も全員賛成し、開発を進めるからみんな出て欲しいというスタンスで地区住民を招集した。
- ・他にも、大寄地区の若人会という会でも話し合いをしている。
- ・地区全員の同意のうえで推進していると私は考えている。

【質問】

- ・初めて市長の話を聞いたが、市長や行政が IR に前のめりになり過ぎる危険性があると感じた。

【回答】

- ・IR が全てだとは思っていない。IR は日本で 3 カ所しか選定されず、申請者の県が国に申請しなければ始まらない。ハードル高く、可能性は数%程度と思っている。
- ・このままでは市の人口が 45%減少してしまう。そうならないように総合計画の後期計画で若者をターゲットにした取組、移住定住対策などを進めていく、そのうえで、IR が来れば、更なる発展が望めるというもの。
- ・地域の皆さんから提案いただいたものであり、当市に何千億の投資をするという事業者も見つけてくれている。前向きに捉えて、可能性があるなら、しっかり検討すべき。
- ・市民が反対で、市議会が反対ということなら、これから議論する場はある。県議会で議決しないと進まない。現段階では、県が取り合うかも分からない。

【質問】

- ・牧之原市が選ばれなくても名乗りを上げることで、テレビでは牧之原市がカジノのまちと言われるかもしれない。
- ・イメージダウンになる。海、空の美しいまちがカジノ（ギャンブル）になってしまう。
- ・IR は、カジノは 3%だが、3%で全体運営を支える大きな収益を上げるもの。統合型リゾートとして、大規模な施設が来てもシンガポールのように収益を上げられるのか、牧之原市では難しいと思う。名乗りすらあげて欲しくない。
- ・人口は減るかもしれないが、カジノによって、犯罪が増え、治安が悪くなり、外国人が入って来ることでの弊害の方が大きいと思う。カジノで人口が減るかもしれない。
- ・みんなでちゃんと話し合っただけ欲しい。
- ・雇用が 8,000 人くらいあるというが、外国企業が入って、海外の人がターゲットでは、外国語が話せる人が必要になる。地元の人が本当に雇われるのか。

【回答】

- ・カジノまちというがカジノ法ではなく、統合型リゾート施設。
- ・反対の人もいるが、商工会や同友会、若手事業者の皆さんなど色々な人と話す中で進めて欲しいという意見もたくさんある。

【回答】

- ・IR がイメージダウンになるかについては、ちゃんとした制度をいれていれば、IR で評判が悪くなった具体的な例は無いと思う。
- ・シンガポールでは、そこに目的で旅行に来る方が増える。カジノ施設を入れることは賛否両論あったが、今、無くていいという議論は無い。
- ・カジノではなく、IR をつくるという制度である。

【質問】

- ・楠田委員長の話では、商工会、同友会、JCなどの若者の意見を取り入れ、実施しているということだが、前市長の西原さんの影響が大きいのにそこには触れていない。
- ・西原さんは、3月18日に開催した同友会の勉強会に講師として説明もしていた。
- ・今日の説明会は、回覧板で知った。専門家から中立的な立場で話すということであった。デロイトトーマツで調べたら、IR誘致を検討する自治体の基本構想や基本方針の策定支援、コンサル業務を請け負っている会社であった。
- ・牧之原市 IR 誘致促進委員会のメンバーを委員会の HP で確認したら、トーマツの増山さんという方が入っていた。どんな役割を担っているか疑問を感じた。
この方と前市長以外は、全員地元の人だった。この方は、委員会の設立前から JC と深い関係があるらしい。去年の10月9日が JC の学習会を開催した時にお二人が何なぜ牧之原市に IR か説明していた。
- ・今日の講師は中立的な立場だということに、お二人が同じ会社であることに対して、不適切と思わなかったのか

【回答】

- ・西原さんは顧問、トーマツ増山さんは相談役として委員会に入っている。
- ・委員会は、JC、商工会、同友会の有志で構成されている。3団体の長で話をする中で IR を検討することにしたが、手探りで話を始めた時に西原さんやトーマツの増山さんが詳しいということで説明を頼んだという経緯がある。

【回答】

- ・日本の中で2つくらいしか詳しい会社がない。
仁木さんは IR 法案の整備の際に色々なアドバイスをされたと聞いている。詳しい方だからお願いした。デロイトトーマツだからではない。
- ・委員会メンバーは公表されている。あえて全員の名前を言わないだけ。

【回答】

- ・(増山さん本人から) 確かに誘致促進委員会のメンバーに入っており、委員会では仁木さんが話したような IR 制度について話をしている。
- ・IR のコンサルタントができる企業は国内でも限られている。
- ・トーマツは監査法人であり、どちらかに肩入れするということではない。
- ・コンサル契約はしていない。委員会への参加も無報酬でやっている。
- ・トーマツは、運営会社を監査する法人、きちんと運営しているかを監査する。
- ・今日の説明会も交通費程度で来てくれている。

【質問】

- ・今回の進め方については、たまたま3人で話し合った活性化のことを言っているが、サイレントマジョリティの話も聞いてもらいたい。

- ・一度、クールダウンして進めてもらいたい。

【回答】

- ・強引に進めるつもりはない。説明会も開催しているし、地域や地区とも話をしたい。
- ・申請者は県となる。県の意見を聞きながら進めていきたい。

【質問】

- ・ギャンブル依存症対策は、国である程度対応できると考えている。
- ・パチンコも規制の強化によって、国内市場も縮小してきた。依存症の人が減っている。
- ・シンガポールは、IR 設置後依存症が減っていると聞いている。
どうして、シンガポールはギャンブル依存症が減ったのかを聞きたい。

【回答】

- ・統計データでは、シンガポールではギャンブル依存症が IR 開業後に減っている。
- ・以前は、教育を含めた手当がされていなかった。高額な税金を納めてもらうので、それにより、しっかりした予算を付けて対応したことでギャンブル依存症が減少した。

【質問】

- ・賛成、反対の前に判断材料として聞きたい。
- ・たくさんの外国人が増えて、小中学校の先生の負担が増えることは無いか
- ・外国人の子どもは義務教育ではないため、現状でも言葉の壁の問題があり、学校に行きたくて行けない現状がある。
- ・IR が実現して牧之原市にそのような子どもが増えると先生の負担が増えるということは無いか。

【回答】

- ・外国人は現状でも増えており、細江保育園では 100 人の定員中 20 人が外国人のため、外国語を話せる人を雇い、トラブルが無いように対応している。小学校でも同様。
- ・IR ができれば、そこから得られる税収を基に、より充実した対応ができると考えている。

【質問】

- ・地域の人たちが故郷榛原の環境に無頓着すぎることを痛感している。
- ・勝間田川の桜も河川敷が見苦しい。地頭方や相良海岸の重油タンクもバルブが全開になっていて、災害時のことを考えると不安になる。
- ・勝間田川の水門を作った際の岩石を自由の女神の前に入れて、岩石だらけの状態。
- ・IR は、私は良いと思う。田沼意次侯生誕 300 年の記念に進めて欲しい。
- ・環境への無神経さをどうするか

【回答】

- ・勝間田川は、地域の方や中学生もがんばってくれている。理解して欲しい。
- ・静波区の皆さんも何回もゴミ拾いや砂利拾いをしてきている。
- ・水門の岩石は、海岸浸食の対策として実施した。外からの意見も受け止めるが、地域からも入れて欲しいということであった。地域と話してやっている。

【質問】

- ・統合型リゾートには全面的に賛成。牧之原市はお金がないためつくらないといけない。
- ・私達 20 代の世代は、小学校で学年 160 人くらい。今後、若い人が働く場も無くなる。
- ・これからの市をどうするかを若い世代も考えないといけない。大人の人も今ではなく、5 年 10 年後を考えてもらいたい。現状をこれからどうするかが重要なこと。
- ・大阪府では投資額 4,800 億円とのことだが、牧之原市での税収はどの程度か。

【回答】

- ・委員会のアドバイザーを依頼しているリナルド株式会社から回答する。
- ・経済波及効果や税収を分析しているが、牧之原市は交通の要衝で、ポテンシャルが高い地域、大阪並、超える売上が想定できる。
- ・売り上げの 15%が静岡県や牧之原市に年間 700 億円くらい入る。入場料の 3,000 円が静岡県や牧之原市に 100 億から 200 億円くらい入る。今の試算ではそれくらい。

【質問】

- ・大寄の原野は今荒れた状態。このまま残せないことが基本的な考え方。
- ・地域の自然を活かしながら、牧之原市の将来に貢献できると考えている。色々な問題があり 100%実現するわけではないが、可能性にかけたい。
- ・シンガポールのマリーナベイサンズやワールドリゾートセンターは、成功事例と聞いているが、できる前と後でどう変わったか。

【回答】

- ・マリーナベイサンズが有名だが、あそこは元々何も無い埋め立て地であったが、今は IR の周りに植物園やホテルビルが集積するエリアに変貌を遂げた。
- ・シンガポールは IR のできる前は、飛行機の乗継の場所で、マーライオンも世界一がっかりする観光地と言われていたが、今は IR から見るマーライオンにも人気が出て、2010 年にオープン後、インバウンドは 1.5 倍から 2 倍になった。